

(2) 4歳児事例

4歳児 6月19日 「どうやって作ればいいの？」

瀬戸 禎乃

探究心：物事の仕組みや性質、原因を知りたいと思う気持ち

幼児の姿

前日の牛乳タイムに、したい遊びの時間に5歳児ほし組のマック屋さんに行ってきた幼児の話を知っていると、「さくら組でも作りたい！」と声上がる。次の日作ることができるように教師が材料を準備しておく、さっそく4A児、4B児が作り出す。しかし、具材の作り方は分かるがパンの作り方が分からない。

4A児：「先生、どうやって作ればいいの？」

4A児、4B児：「わからない…」

教師：「どうしようか？」

しばらく考えても答えが出ない。

教師：「それじゃあ、ほし組のマック屋さんに行つて見てくる？」

①教師の提案を聞き、4A児、4B児は元気よく「うん！」と答える。②その会話を聞いていた4C児、4D児、すみれ組4E児も一緒にほし組へ。でも、見せて欲しいけれども自分たちから5歳児に話しかけるのが恥ずかしいようで、みんな黙っている。そこで、教師が代弁した。

教師：「マック屋さん、さくら組でも作りたいんだけど、作り方が分からないから見せてもらえますか？」

ほし組のマック屋さんは快くハンバーガーやジュース、ポテトを見せながら作り方を教えてくれた。③4歳児はほし組のマック屋さんの材料を身を寄せながらのぞき込む。小さな声で「…新聞だ」「…段ボールだ」「…ポテト、何でできてるんだろう？画用紙かな？」とつぶやく姿もあった。さくら組に戻ると、パンの作り方は難しいと思ったようで作らなかったが、

4A児：「ポテトの入れ物、これでいいね！ガムテープ貼ってあった！ガムテープちょうだい！Mって書いてあった！」

4C児：「ピクルス、段ボールで作ってあった！こんな形！」

教師の援助

子供たちから作り方のアイデアがでたり、ほし組の作り方を見に行きたいという考えが出てきたりするといいなと思ひ、しばらく一緒に考えることにしたが、子供たちから意見が出てこなかったため、見に行くことを提案した

探究心

①教師の援助により、5歳児の作り方を知りたいという思いが生まれた

欲求

探究心

②違う遊びをしていたが、教師と友達の会話を聞いて興味関心をもった

好奇心

教師の援助

5歳児に声を掛けることは4歳児にとって緊張や恥ずかしさがあった様。そこで教師が代弁することにした

探究心

③言葉数は少ないが、態度や目線から5歳児のマック屋さんがどんなものを使って作っているのかを知りたいという強い探究心がうかがえる

観察

見てきて自分が作れると思ったものを張り切って作り出した。

段々と準備が進むと、メニューの看板も作りたくなってきた4A児。ほし組と同じ色で作りたいたが分からず困っていた。今度は自分から5歳児に確かめに行くという意見が出てくるかと思っ
て待ってみたが、出てこないで、④教師からまたほし組に行っ
て見てみようかと提案すると、4A児は「そうしよう!」とす
ごく嬉しそうに同意し、4B児、4E児、教師の4人で再度ほし組へ。
マック屋さんには5歳児男児が一人店番をしていた。

教師：「聞いてみたら？」

4A児：「…4E児ちゃん聞いてよ」

4E児：「え〜!？」

3人：「・・・」

3人とも恥ずかしさから、話を聞く勇気がない、といった感
じで顔を見合わせながら黙ったまま。なかなか話をしてこない
3人の相手に困った5歳児男児はどこかへ行ってしまふ。すると、
⑤3人は店の中を覗き込もうとする。4E児が店の中にある
看板らしきものに気付き、そーっと手を伸ばし手に取る。

4A児：「水色だ!」

色が分かったとたんに3人とも目を輝かせ、「先生、水色の紙
ちょうだい!」と言いながら急いでさくら組に戻る。教師が水
色の画用紙を渡すと4A児は嬉しそうにメニューを書き始めた。

教師の援助

作りたいという意欲が薄れる前に、もう一度ほし組へ行って見てみようかと提案した

探究心

④教師が援助することで安心して調べることができる、分からないことを知ることができるということに期待感を持っている

期待

教師の援助

今度は自分たちで5歳児に声を掛け、自分たちの力で知りたいことを調べる力を身につけて欲しいと願い、見守った

探究心

⑤直接聞けないけど、どうしても知りたいという欲求からきた行動。そして、色が分かると瞬時に「水色だ!」と発見を喜び、メニュー作りへの意欲につながった

欲求

発見

探究心：物事の仕組みや性質，原因を知りたいと思う気持ち

幼児の姿

4F児：「先生，今日はおそこ（テラスを指さす）にお城を作りたいの」

教師：「いいね。先生も一緒に作りたいな」

登園後，すぐに今日したいことを教師に話す4F児。着替えや荷物の整理を終えた後，テラスに出て大型構成遊具を使い，教師と一緒に城を作り始める。

4F児：「ここに青色（の大型構成遊具）を持ってきて大きなお城作るの。先生も持ってきて」

教師：「わかったよ。今持ってくるね」

4F児：「うん。大きなお城にしたいからいっぱいくつつけるんだよ」
そこへ4G児が通りかかった。

4G児：「4F児ちゃん何作っているの？」

4F児：「今ね，大きなお城作っているの」

4G児：「そうなんだ。4G児ちゃん(私)大きなお家作ったことあるよ。一緒にお城作りたいな」

4F児：「いいよ。作ろう」

大きなお城を作り始めるが，以前，高く積み上げた大型構成遊具から落ちてしまった友達のことを思い出し，あまり高く作ると上に登れないと思い，悩み始める。

4F児：「これじゃあ大きくならないよ」

4G児：「じゃあどうする？」

4F児：「3階より上は作れないし…」

①4G児：「でも大きなお城作りたいな，やっぱりこの上に（大型構成遊具）つけて高くする？」

4F児：「うーん，でも…」

4F児と4G児が悩んでいたところに，4H児がやってくる。

4H児：「4H児ちゃん(私)緑の（大型構成遊具）使って作ろうかな」

4G児：「4H児ちゃんもお城作る？」

4H児：「4H児ちゃん(私)はこの（青色の）となりにお城作るよ」

4F児：「お城2つになるね」

②4G児：「あ，4H児ちゃんのお城とつなげたらいいんじゃない？」

4H児：「うん。4H児ちゃん(私)のお城とつなげたらいいんだよ」

探究心

①高く積み上げずに大きなお城をつくるにはどうすればいいのか，二人で話しながら解決策を探っている

解決しようとする

探究心

②友達が隣で作り始める姿を見て，高さから広さへ，大きさの概念の捉え方が切り替わっている

概念の理解

4F児：「そしたら、大きなお城になるね」

高く積み上げるのではなく、2つのお城を横につなげて大きなお城にすることに決め、3人で作り始めた。

4H児：「緑のお城も青のお城と同じ（高さ）にすればいいよ」

4G児：「いいねいいね、そしたらつながるね」

3人でお城の高さをそろえ、2つをつなげた。

4F児：「やったー！できたできた」

4H児：「大きなお城できた」

大きなお城が完成し、中に入って3人で遊んだ。

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

園庭で数人の4歳児が虫探しをしていた。4C児も教師とともにカマキリを探すが、「カマキリいない。どこにおるん?」「全然見つからない」と、なかなか見つけることができず、とても残念そうにしていた。そんな時、教師がカエルを発見。4C児が素早くカエルを捕まえて「つかまえた!ちっさいな~!」などと言いながら嬉しそうにカエルを見ていると、「見せてー!」と何人も集まってきた。でも、①一瞬だけ見せると、「僕のカエルだから!」と言って寄ってきた友達から逃げるようにその場を離れる4C児。見せて欲しいと言っていた子供たちは、あきらめてまた虫探しに戻る。そんな中、4I児はどうしてもカエルが見たかったようで、②4C児の後を追いかけて、小さな声で

4I児:「4I児ちゃん(私)も見たいなー、見せて」と何度か声をかける。しかし、4C児は4I児の声に反応しない。

③4I児:「4I児ちゃん(私)も触りたい」

今度はカエルに手を伸ばしながら話しかける。しかし、④4C児は「何かに入れないと逃げちゃう!」と言いながら足早に保育室へ行こうとする。なかなか聞き入れてもらえない4I児の思いを教師が代わりに4C児に伝えようかと思った時、

⑤4I児:「4I児ちゃん(私)も見たい!」

と今までよりも大きな声で4C児に声をかける。すると、4C児は「え!?!」と驚いたように立ち止まり、4I児にカエルを見せた。ようやくカエルを見せてもらえた4I児は「かわいい!」と言いながら、指先でカエルをちょっとだけ触った。その後、4C児が保育室前のテラスでカエルを透明カップに入れると、4I児はそこに水を入れる。「カエル泳いだ!」と喜ぶ4C児。4I児も一緒に泳ぐカエルを見ながら嬉しそうな表情をしていた。

(補足) 4C児は小さな生き物に興味関心が強いが、なかなか自分で見つけることができず、よく教師の手を借りながら虫探しをしていた

自己主張
①見つけたカエルを自分だけのものにしたいたいという強い思いからきた言動 欲求

自己主張
②他の友達はずぐあきらめたが、4I児は見たいという思いが強かったので何度も繰り返し4C児にお願いしている 意思表示 欲求

自己主張
③見たいという欲求を話しかけるだけではなく、触ろうとする行動でも主張 体表現

自己主張
④カエルに逃げられないようにしたいという思いが最優先で、4I児の声を受け入れようとしない 欲求

教師の援助
この時点まで、教師は4I児が4C児に自分の思いを伝える方法を見つけられるように、4C児には4I児の思いに気付いて欲しいと願い、敢えて口出しせずに成り行きを見守っていた

自己主張
⑤大きな声で話しかけることで、ようやく4I児は自分の思いを相手に聞き入れてもらうことができた 意思表示

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

4J児, 4K児が砂場で団子を水の中に投げて水しぶきを花火に見立てて遊んでいた。そこへ, 4L児と4F児がやってきた。

4L児, 4F児：「私も泥団子作りたいな」

4J児：「いいよ。ここで今, 泥団子投げて, 花火にしているの」

4K児：「4J児くん, 人たくさん来たからいっぱい花火作れるよ」

4F児：「花火いっぱい作りたい」

4L児：「大きな花火いっぱい作りたい」

①4J児：「じゃあ, みんなで大きな泥団子作ろうよ」

4K児：「そうしよう！」

大きな団子を作り始めるが, 4L児と4F児の団子はなかなか大きくなりず, 作っている最中に壊れてしまう。

4L児：「小さいのしか作れないんだけど…」

4K児：「すぐに, ぎゅっぎゅって丸めたら？」

4F児：「そうしてみる！」

4L児, 4F児：「小さいのしか作れないんだけど…」

4F児が試してみるが, 団子は壊れてしまう。

4F児：「大きい泥団子どうすればできるの？」

②4J児：「みんな, 4J児ちゃん(私)が教えてあげる！泥団子作った上からこっちの白い砂をつけるとかたくなるんだよ」

4L児, 4F児：「そうなんだ, やってみよう！」

4J児が言った作り方を試してみると, かたくて壊れない団子が出来上がった。

4F児：「先生見て見て！4J児くんの（作り方でやってみたら）すごいよ。大きいのが作れたよ」

4L児：「私のはもっと大きいよ」

教師：「本当だ。大きい泥団子になったね」

4J児：「ほらね。大きいのになったでしょ」

みんな大きな団子を作り, 水の中に投げて水しぶきを大きな花火に見立てて遊んだ。遊びの後半は, 大きな団子をただ投げるのではなく, 高いところから投げたり, 勢いよく投げたりして水しぶきの変化を楽しんでいた。

(補足) 4J児, 4K児は週の初めから晴れた日は団子を作って遊んでいた

自己主張

①大きな花火にするために, 大きな団子を作りたいという自分の気持ちを友達に話す

提案する

自己主張

②4J児は何度も団子を作っていたので, 大きな団子を作るには, 団子の上から乾いた砂を付けて固めなければならないことを知っており, 友達に教える

友達に説明する

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

前日、保育室にジュニアブロックを円形に並べてプールを作り、カエルになって遊んでいた4M児、4N児、4B児、4O児。この日も、朝の着替えが先に終わった4M児がさっそくプール作りを始めようとしていた。

4M児：「今日は四角いプールにしようかな。それとも三角にしようかな」

教師：「今日もプールができるんだね。楽しそう！どの形のプールでもいいと思うよ」

4M児：「どうしよう、どれがいいかな。三角がいいかも」

4O児：「丸がいいと思うけど、、、」

4N児：「四角のプールがいいんじゃない？だって、昨日は丸いプールだったから、今日は四角にしたらいいと思う」

3人は自分の意見を主張するが、友達にはなく、教師に対して意見を言っていたので、「じゃあ、一緒にプールを作って遊ぶ仲間に聞いてみたらいいんじゃないかな？」と提案した。

すると、4N児は4M児、4B児、4O児のそばまで行き、

①4N児：「ねえねえ、四角のプールでいい？」

と、聞いてまわった。

②4M児：「四角？わかった！」

4B児：「いいけど」

2人はすぐに4N児の提案を受け入れるが、4O児は少し考える。

4N児：「ねえ、4O児ちゃん、四角でいいでしょ？四角にしよう？」

優しい口調で4N児はもう一度4O児に問いかける。すると、

③4O児：「…四角でいいよ」

4N児：「やった！」

それから、4人と教師はジュニアブロックを四角く並べ、「プールの中にはっぱも置こうよ」と、円形のジュニアブロックをプールの中にいくつも置いた。その後、4人はカエルになってプールの中で遊ぶことを楽しんでいた。

(補足)プールで遊んでいたのは他にも何人かいたが、この4人が一番この遊びを長く楽しんでいた



教師の援助

どの形のプールにするか、同じ遊びをしたい仲間同士で話をして決める必要があることに気づけるよう促した

自己抑制

①プールの形を四角にしたいが、自分の意見に合わせてくれるかどうか友達に確認している

提案

(補足)4N児は他にもよく一緒に遊ぶ4A児や、昨日プールで少し遊んでいた4P児にも声を掛けていた。2人とも「いいよ」と答えていた

自己抑制

②三角がいいと思ったけれど、四角もいいと思っていたので、4N児の提案を受け入れた

気持ちの切り替え

自己抑制

③他の友達みんな四角でいいと言っているし、仲良しの4N児にお願いされたので、4N児の意見を受け入れたと思われる

受け入れ

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

保育室のままごとコーナーで赤ちゃんのお世話ごっこをして楽しんでいた。

4G児：「赤ちゃんのトイレの場所がないよね」

4L児：（キッチンを指さして）「ここなら水出るよ」

4F児：「ここはご飯のところだよ」

教師：「そうだね。どうしたらいいのかな」

4G児：「赤ちゃん用の小さいトイレ作って置いたらいいんじゃない」

4L児, 4F児：「いいね。トイレ作ろう」

製作コーナーに移動し、ティッシュケースを使ってトイレを作り始める。

4G児：（ピンク色の花柄の箱を指さして）「この箱可愛いからこれで作りたいな」

4L児, 4F児：「私もこのピンクの箱がいい」

教師：「みんなこの箱で作りたいんだね。みんなと一緒に作ろうか」

4L児：「私がこれ（ピンクの箱）で作りたい！」

4F児：「私も」

4G児：「でも、この箱1つしかないよね」

3人で1つのトイレを作ると思っていたが、1人1個作りたいようであった。

教師：「ピンクの箱は1つしかないね。どうすればいいかな？」

①4G児：（他の白色ティッシュケースを出してきて）「こっちの箱にお花描くね！そしたらお花のトイレになるよ」

②4L児：「そうだね。私もこれにする（違うティッシュケースを持つ） 4F児ちゃんにピンクのあげる」

その後、3人はトイレとトイレトペーパーを作り、ごっこ遊びの続きを再開していた。

自己抑制

①自分が見つけた箱を友達も使いたいことを知り、友達の思いを尊重し、違う箱に花の模様を描き代用しようとしている。ピンクの箱にこだわるのではなく、みんなと楽しく遊びたい気持ちの方が強い

提案

自己抑制

②さっきまでは自分の気持ちを押し通して、友達に譲ろうとしなかったが、4G児の考えに共感し、4F児に譲ることにして気持ちを切り替えた

気持ちの切り替え